





 景清外傳

 三編

 四

^ 13
 2891
 14



門へ 13
2891
巻 14

景清松の操三編卷之四



東都 絳山戯編

第廿三回

賢吏明断 邪曲を正す
奸夫非を悔て 善良不帰也

右大将源頼朝卿平氏の暴木曾の逆を亡し。睿慮を易人ト
奉らざる。其功大あるをりて。総追捕使不任せられ。世を総治めらひたり。
爾は民の便宜をみたり。庄園小地頭を居民の邪曲を正し。ゆふらふ
相摸國湊後郡ハ畠山有重をりて。地改よめ。ゆふ共人若良の賢者
あて。政道私あつらふ。追國のり。其徳を慕ひ。共不帰。位ける
不し。自ら土地豊饒して。風俗衛。告不。戸さ。枕を高し。

昭和九年三月三日

腹誠して樂しむぬ。然れども大磯の地。京極舎の羅路あれど。旅客の爲る。沿道多く公吏の絶る隙をある。有重これ不倦る。訴を断ると明あり。今日も朝まだけよりして。訟庭不出て。訴を聴。其次身を退て。これを断。既終の訴訟不至。前日訟出る。知の。旅の盲老十二が。取れ令を失。あつ二件あり。十二と盲老とを。訟庭の中央小引居へさし。あつ十三小對て。同小。汝盲老が。忘る。金を。棄れさる。あつ。陳へ。あつ。彼金を入。と云。搦膊を。女が。京より出。これ疑。あつ。あつ。棄れ。と云。沈あつ。詳小。陳へ。あつ。十二敬で。回応。あつ。命。実小。畏。あつ。ぬ。今。疑。と。明白。小。か。疏。ま。沈。あつ。私。と。前小。我。あつ。を。搜索。あつ。小。令。い。あつ。して。搦膊。の。と。出。づ。盲老が。金。を。失。日。未。あつ。さ。あつ。捕。る。爾。と。い。何。の。暇。あ。つ。て。令。を。何。方。小。法。さ。ん。や。実。小。棄。れ。か。つ。あ。つ。さ。く。あ。つ。る。我。あ。つ。の。うち。索。め。あ。つ。き。で。あ。つ。る。や。願。く。は。明。公。判。し。と。有。重。恐。首。

盲老小對い。汝。京。來。戸。平。次。と。相。識。友。あ。つ。て。あ。つ。や。吾。一。國。を。隔。て。あ。つ。い。か。で。知。る。小。い。かん。一。巻。を。と。を。名。を。知。の。と。あ。つ。る。と。性。質。を。知。る。奈。何。と。さ。ん。の。京。來。が。女。見。を。川。竹。小。集。ん。と。せ。し。高。村。教。ま。の。唱。家。が。名。を。聞。し。の。あ。つ。る。戸。平。次。が。名。あ。つ。より。て。見。て。忘。る。と。ぞ。ら。し。有。重。と。れ。を。父。より。も。と。不。審。し。き。あ。つ。る。と。い。ふ。女。見。の。身。を。售。り。い。父。あ。つ。沈。く。法。せ。し。よ。前。小。爾。云。つ。る。を。今。は。つ。る。京。小。登。る。い。も。行。程。遙。あ。つ。不。賤。き。身。あ。つ。て。大。令。を。持。ち。も。盲。老。の。只。一。人。長。途。の。旅。を。あ。ま。さ。る。い。ハ。母。が。親。屬。隣。伍。の。い。か。で。れ。を。免。さん。や。是。不。審。ま。の。二。ツ。と。い。ふ。仮。初。小。歌。し。家。小。女。見。が。身。を。售。個。一。易。ら。ぬ。令。を。獲。あ。つ。忘。る。と。い。ふ。是。不。審。の。二。ツ。と。い。ふ。今。速。小。判。つ。の。身。を。弁。せ。ば。訴。不。中。不。審。ま。を。汝。が。故。に。の。知。縣。小。実。否。を。問。ひ。て。断。べ。し。と。い。ふ。嚴。小。審。実。る。と。い。ふ。終。附。二。盲。老。回。応。

かく。さし俯て居しりしが。かゝあつて云出たる。素るの邊鄙のみの。村不成人とい
 ちれば。世の間のる。弁せり。のちさのあけら。辞の序を失ひて。也疑ひを蒙
 たり。今其るを弁せんと。そんときれん。ちよひ。誤るのをもとひ。ちく。ちの
 明。あらん。千萬のる。やさん。失ひたり。我搦膊の。十二が。素より。出
 と。素が。訴へ。仍る。きを。憐と。惜し。られ。悼色。あ。竹。上。ま。有。重。二の
 搦膊。を。出。せ。ふ。似。る。りの。ま。く。あり。汝。整。も。ん。と。あ。て。よく。これ。を。弁。せ。り
 名。盲。考。笑。て。云。つ。ろ。ろ。九。素。が。如。き。の。い。香。を。り。て。よく。弁。し。今。我。詩。の
 搦膊。あ。つ。も。ふ。ふ。ふ。觸。れ。希。し。ま。らん。有。重。ら。ハ。と。搦膊。を。と。り。ろ。
 盲。考。が。ふ。ふ。ゆ。れ。バ。や。鼻。小。押。一。り。て。哲。考。へ。居。し。り。が。と。れ。こ。前。
 失。ひ。一。素。が。搦膊。ふ。け。有。重。笑。て。つ。ろ。も。爾。と。そ。い。汝。が。物。ち。れ。バ。其。の。い。
 後。ひ。て。の。縁。故。ハ。よく。知。り。て。居。る。ら。れ。バ。そ。を。其。不。述。ぐ。せ。ん。と。思。ひ。し。り。

ろ。を。聞。き。て。畏。く。其。搦膊。ハ。久。く。持。り。の。り。て。別。不。悟。し。き。縁。故。と。と
 ち。せ。も。果。を。有。重。ハ。大。唱。一。声。盲。考。を。叱。り。汝。を。れ。を。持。ち。あ。が。ろ。そ。縁。故。を
 知。ら。ざ。る。あ。る。上。を。仍。る。曲。考。を。も。其。搦膊。の。る。ハ。近。日。戸。平。次。盗。入。ふ。ま。い。
 今。を。失。へ。り。を。訴。ふ。我。日。も。あ。る。を。そ。盗。賊。を。捕。檢。問。せ。れ。バ。戸。平。次。か。今。を。こ
 本。あ。よ。し。を。ま。い。其。今。尚。ら。ふ。あり。と。其。搦膊。ハ。一。今。を。出。せ。その。す。戸。平。次
 不。返。し。取。ら。ぬ。其。時。其。搦膊。ハ。素。が。刑。を。下。し。盡。た。し。か。今。現。不。刑。あり。
 斯。の。境。の。あ。る。の。を。汝。が。物。と。云。は。る。る。是。皆。仍。欺。く。あり。積。る。如。其。一。件。ハ
 戸。平。次。と。示。し。合。編。を。ま。て。あり。ぬ。一。ま。る。包。ま。む。白。首。せ。罪。一。等。を。免
 ま。べ。し。と。神。の。如。き。明。斷。小。盲。考。今。ハ。包。こ。み。相。公。の。命。せ。入。り。明。斷。の。ち。と
 畏。し。入。り。ぬ。其。一。件。の。る。の。素。が。曾。て。知。ら。ざ。る。あり。て。渾。戸。平。次。小。形。れ。て。如。は。ハ
 あり。ま。る。ぬ。刑。を。素。が。ん。より。知。り。る。あり。ぬ。罪。科。を。免。し。ま。り。て。戸。平。次。を

りての始末尋問せしむるに。戦ふ粟て甘く上れば有重完ふと
 うち笑ひ喜び十三小對ひて。汝が罪のあつたるに。二目老が首身あつてをりて
 明らかぬれば今日より。汝小還らしむるに。爾あれ今日戸平次が。其へ
 来るに。汝を待て歸るに。云々とゆれば十三小。低頭平身して感付た。
 赤二目老が命を小おめて。実小知れぬと云ふ。彼ゆくるを巧に脱ぎて死ふ
 隔しを。相公の頼情の明断を。命助るのともあつて。身の冤罪を明する。
 礼をすし。小おされを。汝に思ふにありと。感佩の涙俵せり。斯る當時
 下吏。其五出来り。跪て云う。今大磯の里人ホ人丸を。誘ひ来て。其
 吉文を持げりと。有重が前小さし。並たり。かてこれを扱き。二目老の失
 ち。今令のる。十三人丸知れぬと云ふ。脱ぎて。汝ゆき。分疏するよ。
 ありて人丸これ泣き。嘆き。身を戸平次が。其小信を。命をりて十三小罪を

贈ひ人丸と。もと。と。憐れ小虫写たり。有重これを読下し。人丸心を痛く感
 たり。其公庭小召人丸へ。里人ホと。おさる。出来り十三小。恙なきを。云て。嘆
 息。其を。走進はひて。の云。有重居且。畏と。只ち。入平
 ち。通の。這程小さし。ひう。有重斯る光景を。見。不便さ。はして。
 人丸小對ひ。云。う。汝初雅くて。叔父を。思。篤き心の。付。その
 赤心を。天翁も。憐れ。せ。故。叔父十三小。今回の。冤罪。今日。脱ぎ。ゆ
 け。その。爾。の。二目老が。罪小。伏せ。を。細。小。知ら
 ぬ。斯。汝。持。叔父を。救。今。用。爾。人丸。戸平次小
 返。思。を。替。待。自。今。納。と。云。ひ。の
 果。下。吏。戸平次を。引。公。庭。出。来。有。重。これ。を。ち。え。つ。
 羽。膝。小。は。き。た。や。れ。戸平次。来。も。く。汝。十三小。何。等。の。怒。あ。る

からん。男子カミ不フ似ニげあきカキ條ジョウもて。彼カ不フ冤ウチ罪ツミをカ負ツせしぞ。巴ウちをカ首カ身ミをカさすカるカ。
 いきまはて同トりつるカ。戸平次カハ條ジョウのカ露ル辰チもつとカ思カひしと。亦カ来カ。騰カの太カ。
 ぐれハ。脱カまんやぐハ脱カまんカと。驚カきしるカ。井カのちしと。其カ志カひりけぬ命カうカ。
 十三カと来カと去カと。曰カしき好カ身カゆひて。尋カ考カもあぐぬ交カふれば。裏カもく傳カり合カふ間カ子カ。
 何カをり想カふ存カなき。被カ冤カ罪カお召カ捕カまぬと。兼カりしし心カを痛カめ。其カ罪カを
 贖カひ援カをるやと。人丸カと議カり若カ于カの。命カを出カして人丸カふすへし。むさひりの
 を。らそりても十三カを。怒カらざるを。猜カしめ是カ等カハ里カ人丸カふ同カひもハあ
 自らカ。分明カふゆひんカと。言カ清カ巧カふけ人丸カふ上カるを。有カ重カを。と白カ眼カて。種カ茶カ張カ
 儀カが希カをりて。欺カんとあまを。その叶カふがきりふある。是カ共カ搦カ腕カを
 何カとらえると。戸平次カが前カふさし。ほりま。戸平次カ取カてこれカを。るる。小素カとれ
 かりれ。物カふし。前カ日カ小盗カ賊カふ奈カれし。と。共カ知カ縣カの公カ庭カあて。孫カび我カふ

久カ選カアし。人丸カを。ゆんカ。條カ小カ。知カ縣カ由カ共カおのりし心カはらむと。思カひぐれば。目カ者カ不
 与カたり。今カ有カ重カ不カ同カれて。何カと回カ応カ言カ信カを。面カを赤カり扱カ居カる。
 有カ重カ呵カしと。ち。笑カひ。し。ち。考カへ。思カふ。共カ分カ疏カハ。あ。し。目カ者カを
 顧カ前カ小汝カ我カふ。せし。る。も。偽カり。今カま。と。戸平次カ不カ傳カり。ま。ま。
 と。く。と。ま。目カ者カ膝カを。進カめて。云カ。戸平次カの。そ。ふ。あ。や。昨カ日カ我カを
 察カ不カ招カき。十三カが家カ小往カ行カて。雨カ。若カ于カの辛カ苦カ錢カを。と。ら。せ。ん。と。空
 し。一カつ。の。搦カ腕カを。と。と。忘カる。今カハ。奈カ何カ陳カむ。と。恐カり。つ。
 る。結カふ。実カる。を。詳カふ。上カげて。我カ共カ苦カ難カを。援カけ。と。云カひ。て。
 戸平次カ今カハ。何カも。偽カる。昔カ阿カ古カ屋カを。買カつ。付カ毘カ毘カ湖カを
 十三カ不カ奈カひ。返カされ。あ。れ。ば。損カ失カを。贖カんと。と。斯カハ。一カま。ま。
 昔カの。履カ歴カを。の。れ。を。好カき。ふ。云カ笑カひ。れ。ば。十カ三カ堪カへ。と。進カむ。出カ。

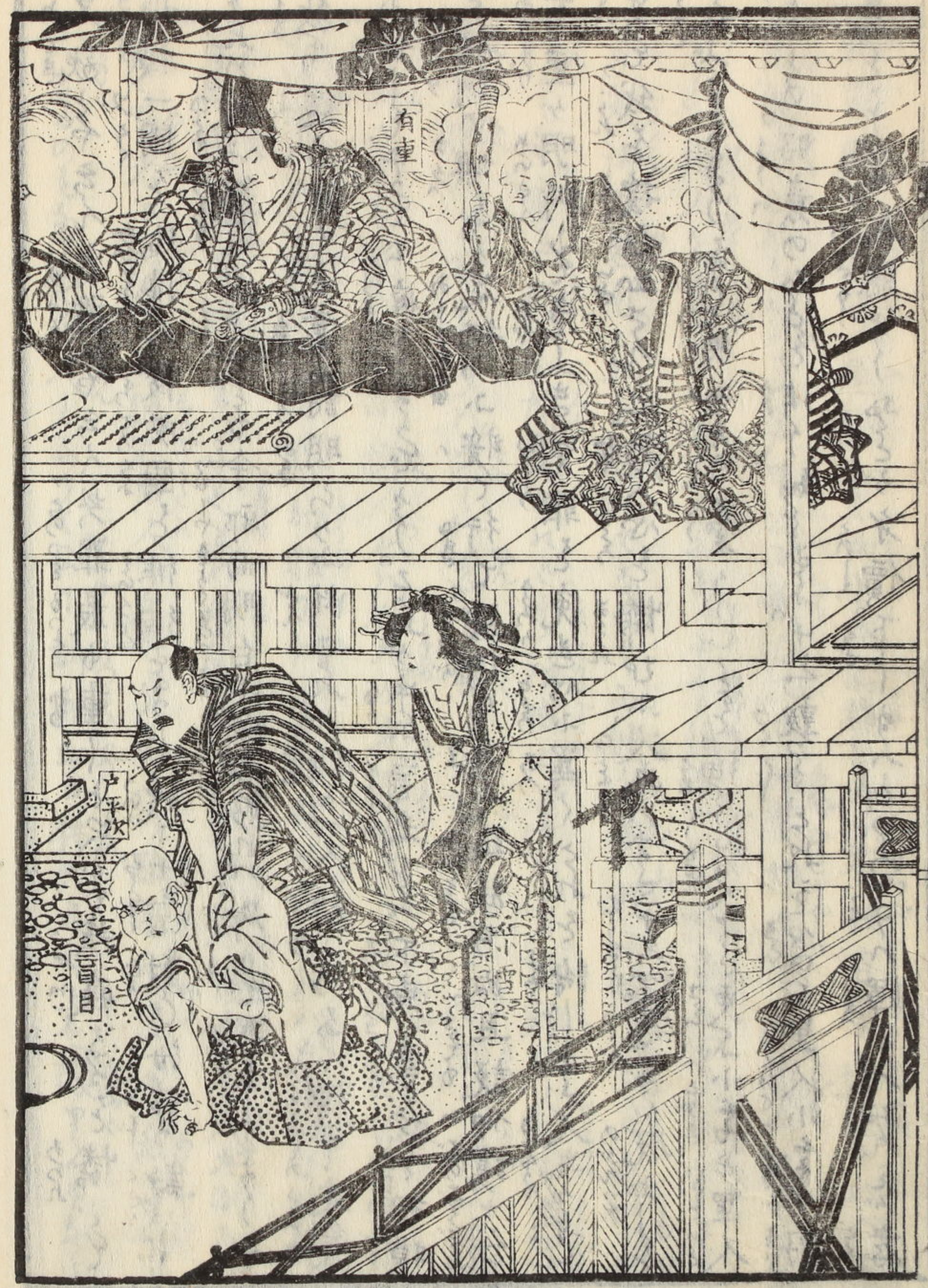
毘羅湖の突る尾張を戸平次を援ひたる有枝有葉を述べた。有
 重熟くこれを覚のまが戸平次不對ひて云。汝昔損失せしむ自らあせりお
 あり。御人を怨むまや。それをふあふふ後不十二が好意ふより。助命せり
 り。我々の恩を。これを忘れてあふく。不彼を免罪不陥んと。よりを巧罪
 種う。重き刑も所成られと。誅成らざるのより。勿雅の人丸を若干の
 令ふ換んと。ふまより。女一六恩を報ふ不似たり。よりて刑を杖ふして
 損失さまをりてこれ不換ん。その人丸が身價を。より度まで。はさまる
 と。次不人丸不對ひて。おとら勿雅不似る。村務の志あれば。戸平次より
 身の價の則ち。汝不らま。これ賞を賜ふ如くと。身價令を人丸不たひ。
 さと盲者不對ひて云。汝不成人の身をりて。人の雅美不及ふ。悪る。小方
 人さるの。あふ。おとら。公不。訴訟出る。体たらく。上を謾。人をふ。

不敵とや。大膽とや。大罪最も重しと。久の残疾。あるを憐れ
 相摸一國を。追拂ふ。後。契國を。徘徊。終ふ。十二不對ひ。汝始。疑
 くれ。獄不。繫。おとら。今。邪曲。明白。不。分。ち。ぬ。れ。が。御。を。罪。あ。し。より。て
 放ち。還ら。ま。と。賞。罰。明。ら。う。不。断。せ。れ。が。惟。々。一。人。詩。の。多。く。渾。を。定。本。未
 不。伏。して。か。ら。て。公。庭。を。ま。り。て。より。それが。中。ふ。盲。者。を。下。吏。率。を。相。摸
 と。駿。河。の。塚。ふ。足。柄。山。不。將。て。行。て。駿。河。の。方。不。追。放。ち。ぬ。且。説。伊。場。十二
 有。重。が。明。断。を。危。し。き。免。罪。を。免。せ。心。不。罵。く。これ。を。謝。し。ま。人。丸。が。身。を
 爲。て。我。を。援。ひ。お。さん。と。思。ふ。心。を。憐。む。小。人。丸。の。ま。た。十二。が。恙。を。脱。知。し。を
 花。ぶ。と。う。ま。り。あ。く。契。や。の。憂。う。し。を。御。け。い。さ。更。ふ。小。者。と。里。人
 等。との。好。意。の。や。を。決。り。知。ら。ま。ふ。十二。熟。く。これ。を。信。じて。里。人。小。者。が。好
 意。を。と。ら。知。縣。より。お。と。が。身。價。下。り。より。の。渾。と。れ。れ。ん。と。が。孝



三浦下第

十三



三浦下第

十六

義より。共福をばると思へば。共命なきやんこと。畏くも思はれぬ。ハ
 いざこれを將し日向小下り。後て望み思ふ。父景清小盲者の官次。
 どのもこそ。然るる。爾あれ小盲里人の。好意小よ。斯をくの。妻
 の命を。得あ。其。們。小。礼。を。の。日。向。小。下。る。を。さ。き。告。て。別。を。を。
 あ。く。と。と。云。小。人。丸。嶽。し。と。父。小。妻。あ。う。た。ま。は。さ。り。と。と。
 好意を罵く謝す。さて日向小下るを。速く。一。本。會。の。期。あ。ら。ぶ。這。回。の
 恩を。謝。さ。す。と。告。さ。し。ゆ。る。小。里。人。小。人。丸。が。孝。性。を。感。じ。名。を。惜。し。と
 妻。の。下。程。を。贈。り。別。を。さ。す。を。れ。よ。う。二。人。へ。小。盲。小。遭。つ。て。乳。を。速。く。別。人
 と。戸。平。次。行。不。起。さ。り。る。茲。小。戸。平。次。ハ。前。頃。不。良。の。欲。より。淺。猿。も。ゆ。い
 一。き。係。あ。ら。は。る。が。夏。成。ら。む。と。い。ふ。事。刑。の。あ。ら。は。る。を。知。縣

の情少て辛く。免さる。家小還て。孰と。是。ま。の。所。行。を。顧。る。小。い。ま。さ。と
 の。こ。ろ。か。り。て。我。行。回。り。危。ふ。き。不。意。あ。ら。は。し。妻。小。盲。が。良。心。あ。る。徳。小
 よ。う。て。身。小。患。あ。き。り。を。は。ら。う。と。い。ふ。事。惜。今。さ。る。小。頻。小。慙。愧。あ。ら。は。る。が。
 其。行。末。の。り。覚。束。あ。く。斯。て。あ。ら。ん。ハ。恐。ろ。く。早。く。佛。の。道。小。入。罪。障。消
 滅。せ。ん。と。妻。の。小。盲。心。理。の。發。願。を。信。じ。は。ら。れ。ば。妻。ハ。素。より。世。を
 厭。ふ。志。氣。深。た。れ。ば。夫。の。言。不。復。す。を。と。ま。ら。ず。喜。び。法。も。不。貌。を。愛
 て。國。の。虚。場。巡。礼。さ。す。と。年。頃。家。小。抱。入。き。一。娼。婦。等。小。それ。く
 の。物。を。与。へ。て。残。り。多。く。身。の。暇。を。と。ら。し。む。と。れ。が。中。の。親。屬。の。み。く。身。を
 寄。方。の。あ。き。り。の。み。に。終。る。ぎ。入。を。撰。び。て。粧。奩。を。整。へ。嫁。し。け。外。家。小
 召。仕。ひ。一。男。女。得。不。成。也。賤。室。を。分。ち。さ。ら。し。も。又。身。の。暇。を。と。ら。し。尚
 殘。り。多。く。命。を。ば。仏。小。供。ト。僧。小。絶。さんと。さ。ら。し。の。を。と。ま。ら。ず。居。る。且。説。十。三

故家こそありくおれを早くせむさふるふ小紛まで生くりしはいと罪つらき
 事なりしと云声漏る夫平次一室の程を搏び出十三が前不頼首赤か
 是おでの所存今更云も言されぬ恐るを免させらるべし。そのく赤生ま
 けて貪欲邪見侍多く人を欺き騙るを恐るをのこも行まれば天と人
 の恐るを受教回と多く産を傾け危うきまのま久しがおど仏神の
 え放し多く足下が如き善良の人の惠まふ今日までも恙あてらるべし
 今回おの企一。恐るのあまざるるはしてなむて先非を知りしを今妻
 がけのまのくまふはの知りあつらる。今こそ実仍さる。洗ふ斯と頂きし。
 頭巾をまきばりのほど。別やとくえ髻髪のおとをさるき浮屠氏の貌
 を見るより妻小宮。後まかせと豫てよう。準備やまらるえ袖の裡より
 髪刺をとり出しけ我と我髪をうつと切拂へば平次入道うち笑ひし。

くも覚悟あのみき。云送まきさるのあつらる。今まかすを
 共らるる議あり。國々の霊場を巡れせんと勅ある小宮とまかす。今入て命
 ち及ん心ひつり序ふまき一件あり。今回夫婦仏道入といえさる根人丸ごの
 る不起まき。さうもまきを考見を我らがるの告知。今人日向ふ赴け不道
 連とまき。勅とまき十三との前の恩且知識への附従ふればまき。今入
 んふ夫いりおおまきをど云ふ平次入道ハ。さうも心をはけらる。十三大人丸姫
 妻がけはるをまき。道連を免しあらんやと。懃おまき。今入れが十三人丸姫
 て。まらぐと心はる。の長旅を我ら二人のこわて。なむ行んハ覚束あくと憂
 るの不思ひ。まき。おの婦の人。傍にも伴人と宜いま心強くとまき。頼る伴
 ひらつれと。さふ夫婦の疑。今今日ハ則ち吉日とまき。今入れ門出せんと俄小旅の
 装ひし。召仕り。男女。その外抱への娼婦等あつてまき。如く。赤居敷

木曾の山中に楯籠り。録倉と軍を以て復古せんとす。人の臣の志
 氣爾あらん。道理あがり。その時未至らば。今録倉の光景を慕ふ。と寢ふ。小
 源二位ハ蓋世の英雄。よく仁義の道を守り。上天子。不事。不恭敬。忠順を以
 て。下万民を治す。汎愛仁慈を以て。歌ふ。い。と。大將。大將。天子。これを
 柱石と。馮。民。ハ。こと。を。父母と。作。天下の人心を。ほ。の。子。房。孔明。が。智
 慧。不。樊。噲。張。飛。が。勇。を。兼。ぬ。ゆ。争。で。け。け。く。ん。や。人。令。限。る。あ。る。り。の。ぞ。
 源二位。を。辞。を。時。を。待。ば。志。氣。を。遂。ぐ。る。ゆ。あ。ら。ん。忠。光。ハ。お。れ。が。お。れ。る。
 術。を。教。へ。思。ふ。べ。た。れ。と。邪。ハ。正。不。勝。と。云。古。言。も。あ。る。を。し。を。疑。り。試。ふ。今
 我。と。術。を。競。ふ。汝。が。お。れ。と。思。ふ。あ。る。覚。明。法師。ハ。神。の。術。を。ほ。ほ。る。り。の。あ。り。と。
 真。実。の。修。験。ハ。知。ら。ず。彼。ハ。木。曾。の。跡。業。を。逆。以。録。倉。不。仇。を。以。て。源。二。位
 より。録。倉。不。仇。を。調。伏。さ。す。り。終。不。調。伏。を。極。し。て。今。ハ。覚。明。亡。び。り。

其の疑が。く。思。ひ。ま。は。鼠。窟。多。る。鼠。の。社。不。も。能。ハ。あ。り。ぬ。と。汝。は。と。あ。き
 覚。明。不。僅。の。術。を。授。け。て。之。れ。を。我。を。思。ふ。り。と。思。ふ。あ。る。り。と。多。る。り。と。
 覚。明。不。僅。ハ。心。裡。不。忠。也。汝。法師。ハ。頼。朝。の。服。ら。り。の。あ。ら。ぬ。れ。が。偽。を。以。て
 我。を。か。ん。を。弱。ら。し。義。兵。を。挙。る。妨。さ。す。あ。り。ぬ。と。我。を。法。師。か。ら。し。め
 ば。一。術。を。施。し。て。其。法師。不。我。を。挫。し。伏。さ。し。め。ん。と。思。ひ。一。は。示。教
 せ。り。と。君。死。す。ら。ぬ。ら。れ。て。な。不。死。を。と。さ。す。不。文。あ。り。ず。入。て。君。家
 二。位。ハ。對。し。ハ。猿。猴。が。月。蟬。蟬。の。芥。及。び。ぬ。る。り。を。知。ほ。れ。が。顔。を。愛。さ。す
 僧。と。す。一。門。の。人。々。の。中。に。流。吊。ら。し。ま。ら。ぬ。と。覚。明。と。も。知。し。て。師。と。我。を
 佛。の。道。不。入。る。不。彼。僧。不。教。々。ら。汝。真。の。忠。臣。あ。ら。ん。仏。道。終。終。せ。ん。ハ。

家不得法者。奇術あり。其法を被る。六條二位を討得ん。いと易しと。惣ふ
術を授たり。柔し。熟せられたる。屢これに試し。不今の事不用らる。後、後者の
修法も。不事。奇を験あれ。これを鳴と。不復。修の思ひを。再ひ。身一。より
ぬ。爾。その。之。あ。り。して。六代。御前。不。謀。叛。を。い。つ。む。あ。り。ま。す。手。我
術の。ほ。と。今。さ。不。被。し。て。内。房。不。つ。せ。ま。の。と。何。か。ら。ん。怪。て。袖。裡。不。卯。を。結。ひ
由。不。思。儀。あり。其。不。あ。る。佛。前。あり。燈。火。の。風。不。寐。と。見。へ。た。り。し。か。忽。ち。側
の。障。子。不。火。殺。す。て。燈。上。ま。り。其。不。會。ひ。居。たり。る。人。を。驚。き。立。發。け。り。文
覺。上。人。と。れ。を。止。め。新。ち。ど。の。る。を。怕。ま。り。ひ。を。と。珠。數。を。揚。て。火。を。擊。ひ。佛。不
供。せ。し。華。瓶。あり。彼。不。水。の。湧。出。て。濁。くと。流。漫。不。入。く。再。ひ。驚。ひ。て。他。の。不
脱。を。避。け。て。奈。何。あり。ゆる。す。中。ら。ん。と。空。觀。ひ。る。ら。ち。水。増。り。て。一。室。裡。不。満。く
た。れ。ば。障。子。紙。門。不。燃。け。ひ。た。る。火。ハ。悉。く。消。失。たり。以。て。る。ら。ち。水。ゆ。り。て。脚

の。を。驚。か。す。を。文。覺。呵。く。と。笑。て。云。汝。忠。光。我。法。と。い。づ。ま。り。猶。る。と。思。ふ。を。其。ま
心。伏。ま。り。今。一。回。法。を。修。ま。り。汝。不。信。り。を。以。て。光明。法師。を。蘇。生。は。し
る。と。徒。然。と。あ。ん。と。は。小。忠。光。無。念。と。思。ひ。這。回。ハ。奇。法。を。成。し。て。其。老。法師
を。挫。か。し。と。精。心。を。凝。ら。し。修。法。ま。じ。ま。り。由。齊。あり。る。天。の。極。光。を。以。て
風。雨。突。き。震。動。お。び。な。り。雷。お。び。な。り。と。電。光。人。の。目。を。射。し。て
其。序。不。居。る。もの。の。色。を。失。ひ。怕。は。戦。了。時。不。庭。の。面。不。あ。る。池。水。暴。不。大。波。を
飛。し。す。間。あり。の。金。龍。現。ま。り。口。を。張。火。煙。不。均。舌。を。動。く。這。裡。を
さ。り。泳。ぎ。ま。じ。ま。り。徒。然。の。輩。相。を。愧。怍。あり。恐。ろ。し。援。け。て。た。と。声。を。あげ。て
叫。び。た。れ。ば。文。覺。登。も。發。せ。り。て。嗚。呼。膝。病。の。もの。の。も。と。云。は。く。仏。前。の。花
を。採。り。龍。を。目。に。び。て。投。げ。し。ま。り。不。思。儀。や。其。光。忽。ち。不。大。き。や。あり。蜈。蚣。と
化。し。龍。と。替。り。發。か。り。龍。ハ。蜈。蚣。不。敵。對。か。り。波。濤。を。跳。び。て。逃。去。り。



尚遠襲して行かば龍も蜈蚣も法師も池の中に入ればさうも恐ろしかり
 肩の筋も歌を雲霧さへともおそゆき糸のどく白日晴くと明あり其時
 大覚上人の忠光お對ひさすや尚これお伏さば又も術を絶えりと云
 きて忠光大覚の九人あぬを感悟してさてお上人の覚明法師を呪祖
 として殺さんとすらん仍あてあるべきも別れども一死高德の上人や
 源二位の旁人それバ我如き拙き術へ行さし今ハそやお上人の公連の内行
 末を頼りなるとおと心裡小念にけ涙をそらくと流してそ入
 今ハ何を包とらんその上人の信を信とらんぞらむこの糸を頼いて
 妨せしうふと畏るも疑ひが目今内法をえまらし実小感伏するを
 ぬ其上ハ後御疑ひするあはし作形くら六代御前を承く徒身とほまひ
 出家淨道さしとて糸糸も教おちりし桑門の身とあつて失ふ君父の

後世の言をふまへん。予矢さる身ハ奈何せん。仇を及ぶがごとくあまて。僧法林
とある所の臆病未練と世の人の誹謗を蒙るハ玄甲斐ふ。速ぶぬると知
はる。せめて力不折ハ傲ハ臣の節を失ふや。名残ハ是ト今ハや。今
世の別小さつと。公連文覚を外の人小名残を惜まはく。辞去んと志を
文覚智世と惹きめ。父といハ兄弟とも。捕ハ小様。忠勇義士感をも尚今
あり。汝赤心を蔽陰む。今述まハ我もさ。思ふもをば。玄甲人然在俗
の昔より。弱きを援け強きを挫く。今仙門ハ入と之とも。志氣ハ変らぬものなら
小繼。源氏小方人。院宣をゆて。源二位を世小出せり。其人蓋世の英
雄也。智仁勇備とハ。仙神三宝の守も篤く。人カよくこれハ務んヤ。天運ハ循環
也。榮枯ハ糾纏の如く。前小平家並みれば。源氏ハ糸の如く絶たざり。あり
。今こそ源氏榮ゆれば。平家ハ曉の燈火消るる如く。六代春秋小富バ

後世の言をふまへん。予矢さる身ハ奈何せん。仇を及ぶがごとくあまて。僧法林
とある所の臆病未練と世の人の誹謗を蒙るハ玄甲斐ふ。速ぶぬると知
はる。せめて力不折ハ傲ハ臣の節を失ふや。名残ハ是ト今ハや。今
世の別小さつと。公連文覚を外の人小名残を惜まはく。辞去んと志を
文覚智世と惹きめ。父といハ兄弟とも。捕ハ小様。忠勇義士感をも尚今
あり。汝赤心を蔽陰む。今述まハ我もさ。思ふもをば。玄甲人然在俗
の昔より。弱きを援け強きを挫く。今仙門ハ入と之とも。志氣ハ変らぬものなら
小繼。源氏小方人。院宣をゆて。源二位を世小出せり。其人蓋世の英
雄也。智仁勇備とハ。仙神三宝の守も篤く。人カよくこれハ務んヤ。天運ハ循環
也。榮枯ハ糾纏の如く。前小平家並みれば。源氏ハ糸の如く絶たざり。あり
。今こそ源氏榮ゆれば。平家ハ曉の燈火消るる如く。六代春秋小富バ

免さるる者益見侍人の御ふかざるはし。爾やのりもを成るると思ひらるる
 只願ふ師の御房上人の教を守りて。よ。あまきも居まればこそ未練のほら
 坐すもれや。世に暇賜らんと心を鬼ふ。公達と文覚と別を告げ袖を拂て立出
 を六代御前ハ今暫時し。牛んと志多ひ。うと。御房の思ひんこの心せ。くゆめも
 漢ふ。小思先が後肯新を又送ま。文覚上人これを強。普代思願の御守
 不別道の。美の道理。勇士の心止め。是。過世の因縁と思ひあき。被
 活也。経読誦。講まる。ふ。生て。地意の祈と。死。冥福の菩提。ふ。ふ。云て
 小。建久三年の四月。法貫次郎。か。為。不。捕。へ。られ。誅。せ。ら。れ。多。と。あ。ん。且。六。代。御。前。の
 ぶ。正。治。二。年。文。覚。上。人。後。鳥。羽。院。の。二。宮。を。御。位。不。即。ま。り。て。六。代。御。前。を。還
 俗。す。平。家。を。奉。真。せ。ん。せ。し。ふ。ま。る。夕。飛。光。し。て。文。覚。ハ。隱。岐。國。小。湊。江。六。代

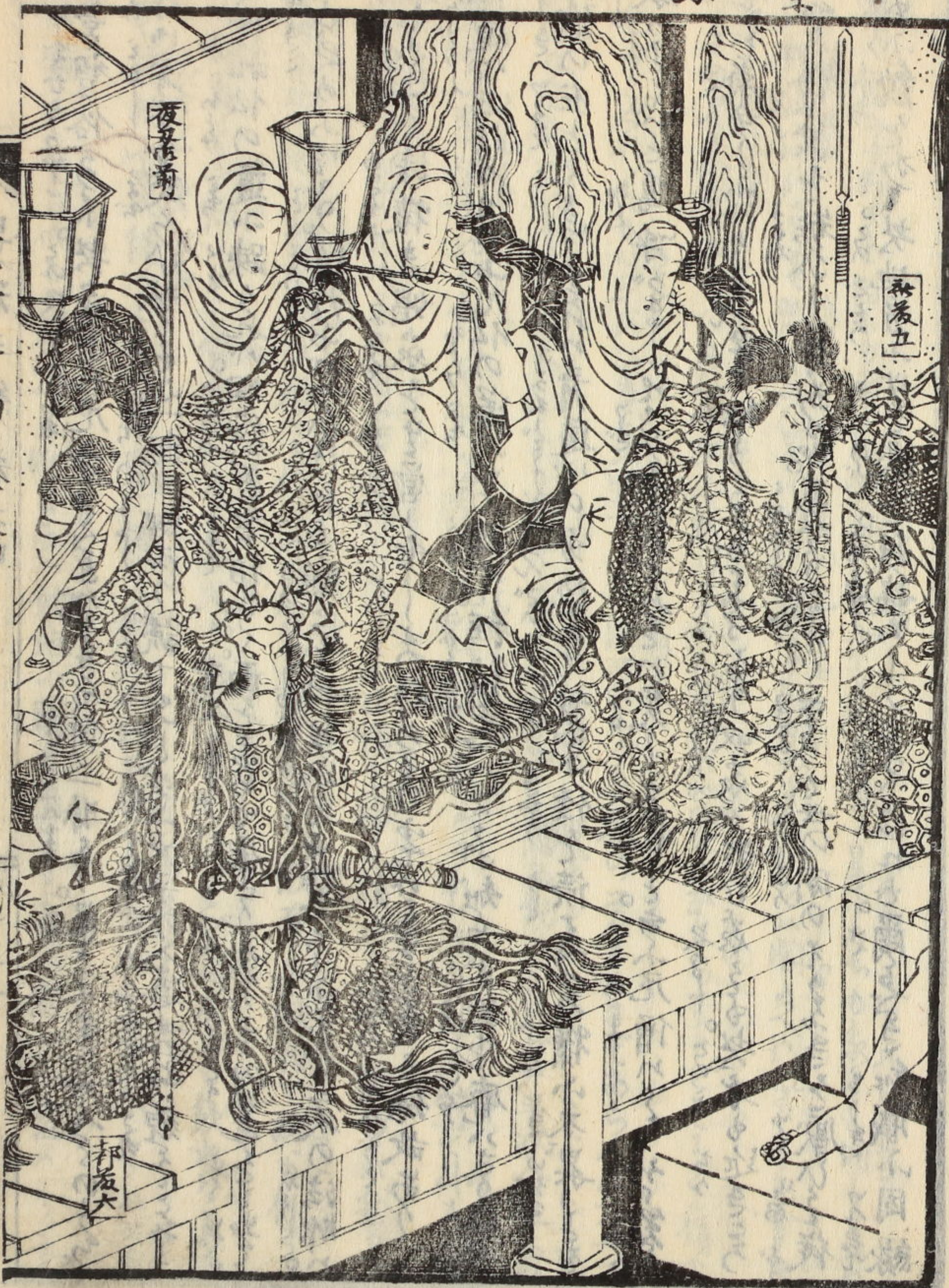
御前ハ誅せられしと。且説十二人丸ハ平次夫婦と。決り小日向と。て。後。登。り
 鳥がもく。吾妻より。て。あ。ぬ。ひ。の。花。葉。の。果。小。至。る。あ。れ。ば。い。と。送。る。道。ホ。て。山
 を。戦。海。を。船。で。艱。苦。を。凌。ぎ。行。な。ど。小。大。磯。を。ハ。春。夜。餘。生。の。末。小。立。り。く。日。終。を
 歴。つ。て。ま。り。く。小。秋。風。を。吹。七。月。の。亡。靈。あ。ら。は。ひ。小。豊。前。國。門。司。が。園。み。ぞ。多。小。せ。り。
 其。地。方。ハ。華。洛。よ。り。九。列。へ。入。る。の。初。り。あ。て。ま。る。寿。永。の。春。ハ。平。家。都。を。落。て。西。國。四。國。小
 地。あり。十。ハ。ま。り。身。一。く。平。家。の。恩。を。受。ま。れ。と。景。清。と。の。縁。ふ。は。る。れ。ば。平。家。の。名。跡
 並。藝。く。内。裡。跡。を。又。な。や。と。て。人。々。と。す。ふ。を。不。ふ。跡。り。四。方。の。風。色。を。眺。望。小。東。ハ
 中。國。四。國。を。海。上。遙。く。又。渡。り。南。ハ。渡。山。近。く。作。き。看。る。西。ハ。後。前。の。海。小。り。て。引
 島。藍。島。を。始。と。り。九。列。の。千。島。を。二。眼。み。ま。北。ハ。長。門。の。下。関。目。前。小。又。く。ま。る。他
 景。つ。も。ん。方。も。思。ふ。む。時。を。移。は。ふ。小。興。日。既。不。ま。ん。と。て。群。鳥。棲。も。と。り。不。家

群^いの^ゆ幽^り林^こを^さし^て飛^りゆ^きを^人々^の驚^きき^んを^あら^わす^る浦^の景^色を^眼を^集れ^日の^西海^に
 没^すを^其宿^をも^とむ^を忘^さす^日暮^ぬさ^りふ^いつ^もあ^らん^宿を^借
 ら^んと^す不^考不^考を^索る^ふと^一座^の林^{あり}人^の住^不と^抄り^て紫^の戸^幽ふ^と
 多^れバ^其宿^不今^夜の^宿を^借ら^んの^と近^ばま^そ求^理の^光景^を窺^ふふ^とな^り
 大^きき^きる^る求^出あ^らぬ^が縁^故あり^ぬぐ^又ゆ^ふふ^あら^ず念^仏の^声を^こい^今夜^亡霊^を
 夢^みる^あら^ずあ^らん^と戸^平次^入道^若小^進と^紫戸^をあ^りく^と歌^けか^水裡^小噫^ま
 と^回応^{して}出^まる^{もの}を^又れ^平を^うの^女法^師あり^くと^さら^世捨^人の^庵を^と戸^平
 次^夫婦^ハ養^へく^我們^も行^果て^ば彩^る處^小住^をや^と心^の裡^小念^トほ^をと^腰
 を^屈め^あら^東國^のの^あて^日向^國小^初志^る今日^一も^世不^をと^るが^浦の^景色^の
 愛^たさ^不眼^くれ^せき^て又^す不^圖付^を復^めれ^日ハ^まあ^らず^不里^きく^宿借^求ゆ^い
 心^が飛^惱と^まぐ^一不^通小^住を^又あ^らじ^圖夜^の燈^火雪^の炭^とを^いひ^あひ^く

推^ま参^り今夜^の宿^をを^彩る^ると^と斬^端の^下あ^らず^と由^新厭^ひひ^とあ^られ^惠と^まら^れ
 と^勉ふ^彩と^まら^ぬ不^尼ハ^四人^の光^景を^熟く^とち^又あ^らず^まら^ずを^惱み^ぬら^ぬ求^まら^ず
 又^之知^らず^と兔^も角^もあ^らず^とん^不暫^付と^不待^多の^縁と^云さ^てて^中裡^ふい^があ^らず^出
 来^らず^人々^の宣^ふる^をと^家を^不去^てゆ^いか^長途^の旅^の人^とあ^らば^さら^を樓^旁う^ら
 ら^ちつ^つあ^も今^夜の^宿を^借ら^んと^せん^と中^にほ^れい^さら^と傍^に不^四人^ハあ^らび^尼不^は
 ぼ^ひて^庵の^ち不^いたり^が小^尼法^師の^湯を^持り^て人^々不^足洗^へ一^室の^裡小^住
 入^らぬ^今マ^求ま^るの^出来^らず^と待^居る^らち^不前^の尾^小尼^等不^配膳^持し^母び^其不^小
 求^まら^ずと^宴を^しく^いま^らず^と又^飯食^バ多^クと^四人^カ前^に居^てを^勉不^軟持^す
 戸^平次^マ求^まら^ず人^々宿^をを^惠と^り大^クと^らぬ^思ふ^不彩^いと^し飯^を得^らず^ハ
 ハ^礼を^す不^らず^と各^配膳^を念^へて^後う^ぬ尚^ほく^感謝^をも^尼ハ^うき^ぬと^不回^ら
 志^して^其后^中あ^らる^ハ今^夜ハ^七月^十五^日亡^霊の^来ま^を夜^とて^凡俗^の人^々を^由ら^ず

書三編卷之四

夜叉
御前
會小



和後五

和後六

十三
人丸
旗岩



十三

和後三
和後四

其習俗もたゞ小共あつた凡たゞ之が由りには佛の三昧あり。兄もつきまれば人ののち。
 仏ののち子も交らひせまり一語の経を讀てのちと云ふ小戸平次入道の娘をとせり
 けられ仏の道の小疎れが回志さ言の借りをありて居るりと。互に付さをとて
 命はたたのと。道はわりひしれと。顔を持つ小兄ともさる二人の法師の
 其やをさで浅様き媚ををを宮をとさりて。夫婦ののちにあるが雨を縁故ありて
 彼道心をたはるりのよて仏の道のと疎く經徒さハンと知らぬ共に庵ハまりぬき。
 知識の在とえしてそれが青道心の分際を世に不經を流をる小標の木昇とを
 教がとくと嗚呼かまりをるこれを免しと云小尼僧はちちちち
 きてい南をく小にあるよ小僧もももももももも。奴が才は才も近きとら
 までに物集を集めて身をあるが憂るをありて世の間のをあるを厭ひて從はり
 とも小貌をわり其地方を逃れて持傍らくくといはれと爾とさず知識の因縁

薄く僧もある俗もある。似似の尼をとるあり。呈下を由ると同じく其
 さが經徒もいさそを悵くひあし強て望ももあるが水をに圍めして今夜に
 其の又もさまぎぎぶるれと女は也しめるものもならばいふまらしトをとりて傳へ
 ナヤといふれくもいひひき。いつ酒者がと。妹の才はももあらん小女をて
 歌ひもいふとれをさるらぬと酒をとりて愈も勤め々れが小平次入道の娘
 小素う酒をれがむびて飲るを尚尼ハ只顧み勸め々れといふと酔て伏す
 尾小法師もをく人をを臥房小伴とり十二ハ慎と淫く。妹中小酒の飲るは其にも
 さいの小女をと。穠と思ひ居るは今尼が勸し淫を飲す小親待て却も飲る
 が酔たまふ似て癖を入丸も叔父が教小女を淫をあるやも飲ぬといふ
 酔て後枕小女といはれれも心澄て睡られ後色の心小女もさるれといふ
 希の國へて日向の程近く近日の故地不睡りといふと其親父の身を入るといふ

心喜び兎角思ひはらるる。次の間小何やらん。響やく声のせへたれば人丸ハサチ怖
 まして十二を顧るふ。亦くも糸小笠知らん。起上つて刀をさす。人丸をさす。耳小口
 をさす。今夜の宿の家を。尼法師と心をいり。熟睡せんと。最前。刺す。時。大さ。ち。ある。丈夫の二人。私語。居る。を。又。さ。の。契。成。入。の。
 巢穴。あ。り。多。る。と。本。め。て。悟。り。ば。あ。ら。ぬ。と。告。知。せ。ん。と。思。ひ。は。れ。ど。も。尼。法。師。お。
 の。断。間。あ。く。左。右。を。去。り。移。り。去。り。隙。あ。く。今。や。昔。と。去。り。ぬ。小。次。の。間。小。私。語。声。の。漏。
 れ。こ。の。よ。り。何。る。ぞ。と。耳。を。歌。これ。を。さ。し。今。夜。宿。ま。し。旅。人。を。切。害。あ。り。て。身。邊。空。
 きの。あ。く。と。商。議。さ。る。小。あ。ら。ぬ。し。油。断。ま。し。附。あ。ら。ぬ。と。本。く。契。成。を。忍。心。び。て。
 ん。と。平。次。夫。婦。を。密。中。小。い。り。起。せ。ど。も。毒。酔。し。て。目。を。醒。さ。し。バ。怪。ま。る。く。暫。付。
 果。我。居。る。と。多。る。あ。る。當。附。隔。の。紙。門。と。井。関。さ。大。勢。が。声。を。呼。ぶ。る。や。う。の。う。
 ぶ。き。る。の。あ。ら。ぬ。し。旅。人。睡。を。醒。し。後。と。嗚。叫。ぶ。平。次。夫。婦。も。教。も。手。醒。て。契。

光景を。さ。ら。う。致。く。慌。忙。き。と。い。後。あ。ら。ぬ。と。思。ひ。は。れ。ど。も。尼。法。師。お。
 惜。し。う。し。十二。の。間。小。何。やらん。響。やく。声。の。せ。へ。た。れ。ば。人。丸。ハ。サ。チ。怖。
 ま。し。て。十二。を。顧。る。ふ。亦。く。も。糸。小。笠。知。らん。起。上。つ。て。刀。を。さ。す。人。丸。を。さ。す。耳。小。口。
 を。さ。す。今。夜。の。宿。の。家。を。尼。法。師。と。心。を。い。り。熟。睡。せ。ん。と。思。ひ。は。れ。ど。も。尼。法。師。お。
 の。断。間。あ。く。左。右。を。去。り。移。り。去。り。隙。あ。く。今。や。昔。と。去。り。ぬ。小。次。の。間。小。私。語。声。の。漏。
 れ。こ。の。よ。り。何。る。ぞ。と。耳。を。歌。これ。を。さ。し。今。夜。宿。ま。し。旅。人。を。切。害。あ。り。て。身。邊。空。
 き。の。あ。く。と。商。議。さ。る。小。あ。ら。ぬ。し。油。断。ま。し。附。あ。ら。ぬ。と。本。く。契。成。を。忍。心。び。て。
 ん。と。平。次。夫。婦。を。密。中。小。い。り。起。せ。ど。も。毒。酔。し。て。目。を。醒。さ。し。バ。怪。ま。る。く。暫。付。
 果。我。居。る。と。多。る。あ。る。當。附。隔。の。紙。門。と。井。関。さ。大。勢。が。声。を。呼。ぶ。る。や。う。の。う。
 ぶ。き。る。の。あ。ら。ぬ。し。旅。人。睡。を。醒。し。後。と。嗚。叫。ぶ。平。次。夫。婦。も。教。も。手。醒。て。契。

光景を。さ。ら。う。致。く。慌。忙。き。と。い。後。あ。ら。ぬ。と。思。ひ。は。れ。ど。も。尼。法。師。お。
 惜。し。う。し。十二。の。間。小。何。やらん。響。やく。声。の。せ。へ。た。れ。ば。人。丸。ハ。サ。チ。怖。
 ま。し。て。十二。を。顧。る。ふ。亦。く。も。糸。小。笠。知。らん。起。上。つ。て。刀。を。さ。す。人。丸。を。さ。す。耳。小。口。
 を。さ。す。今。夜。の。宿。の。家。を。尼。法。師。と。心。を。い。り。熟。睡。せ。ん。と。思。ひ。は。れ。ど。も。尼。法。師。お。
 の。断。間。あ。く。左。右。を。去。り。移。り。去。り。隙。あ。く。今。や。昔。と。去。り。ぬ。小。次。の。間。小。私。語。声。の。漏。
 れ。こ。の。よ。り。何。る。ぞ。と。耳。を。歌。これ。を。さ。し。今。夜。宿。ま。し。旅。人。を。切。害。あ。り。て。身。邊。空。
 き。の。あ。く。と。商。議。さ。る。小。あ。ら。ぬ。し。油。断。ま。し。附。あ。ら。ぬ。と。本。く。契。成。を。忍。心。び。て。
 ん。と。平。次。夫。婦。を。密。中。小。い。り。起。せ。ど。も。毒。酔。し。て。目。を。醒。さ。し。バ。怪。ま。る。く。暫。付。
 果。我。居。る。と。多。る。あ。る。當。附。隔。の。紙。門。と。井。関。さ。大。勢。が。声。を。呼。ぶ。る。や。う。の。う。
 ぶ。き。る。の。あ。ら。ぬ。し。旅。人。睡。を。醒。し。後。と。嗚。叫。ぶ。平。次。夫。婦。も。教。も。手。醒。て。契。

い ことばに平次夫婦をとりて縁故を却て互に形を合せしめて弄す其の志ひをあらわしめんとす
今宜しからずを辞むとありぬれども我は堪へず人丸が孝心のまじりて彼が志を
遂げさせらん使はれぬが果しとて今右の御心を告ぐは人とてはひて戸平次
又我輩の心と何ぐゆびまが日向の下き一人おぼくは二三日の夜又
御前をす母が言を待も人丸の孝心憐れ早く日向の伴ひて父事清の對面
さし心をもて遂に後今夜我言の言信をやり傳へておぼくは親づよ親づよ
人丸準備して日向をゆく旅發終とまらぬが四人のりこの志を余も承りて母の
又おぼくと眼を告て立出ぬおぼくは鳥の聲の可也とて人丸が父を慕ふ孝心
の信を賜て日向國宮崎として急ぎたくらきて其後夜又御前へ来方を信らんとて

素直孫見身を相俱して四國不赴んと志し難風小舟をりて紀刻小流を流し石園惟盛
小環に會ひぬ惟盛世も入水とけり人丸と美の縁念のり信りて母の志を承りて
あや夜又御前へ来ては美の志を承りて母の志を承りて母の志を承りて母の志を承りて
と深く感ずこれまでの志を承りて美の志を承りて母の志を承りて母の志を承りて母の志を承りて
涯を易く後を承りて母の志を承りて母の志を承りて母の志を承りて母の志を承りて母の志を承りて

景借
外傳 松の操三編四之巻終

